

情熱の踊り

「フラメンコ」に親しむ

9月4日(土)、めぐろパーシモンホール小ホールにて、日本のフラメンコ界第一人者・小松原庸子スペイン舞踊団を講師に招き、フラメンコの歴史・文化を学び、楽器演奏や歌、踊りを観て感じる講演会を開催しました。



立ち姿も美しいフラメンコの衣装



サバテアード(足踏み)と
ファルダ(スカート)の美しい動き



深い悲しみの中に美しさと力強さを
表現する小松原先生



会場を一時でスペインのタブラオにする
ギターとカホンの音色



深く響き渡る声で
ジブシーの喜びや悲しみを歌うカンタオール

魂の叫び フラメンコ

フラメンコはスペイン南部のアンダルシア地方で生まれた民族舞踊です。もともとはインドを起源とするジブシー(スペイン語でヒターノ)が、安住の地を求めて長い放浪生活の末に辿りついたのがアンダルシア地方だったのです。ジブシーの生まれ持つ感性や音楽と、アンダルシアに古くから伝わる音楽が見事に融合して生まれたのがフラメンコなのです。ですから、はじまりは踊りではなく歌(カンテ)だといわれています。カンテはジブシーの喜びや悲しみ嘆き、想い、希望など魂の叫びなのです。

ユネスコ世界 無形文化遺産

互いの掛け合いからリズムが生まれ、それに合わせて男も女も踊りだし、バルマ



シギリージャを踊る小松原先生と
男性舞踊家



力強いサバテアード(足踏み)が
観客を惹きつける

ここは スペインの タブラオ!?

舞台奥からバルマ(手拍子)、カホン(打楽器)の響きが聞こえ、ギターの音色とともにフラメンコの幕が開きました。カンタオールによる深い響きのある歌に会場は二気に引き込まれ、まるでスペインのタブラオにいるかのような雰囲気となりました。

スペイン・セビージャに春を告げる4月の祭り(フェリア・デアプリル)。



スペイン・セビージャに春を告げるセビリヤナス

街中がフラメンコに染まりま
す。明るいろ
ずムと華やかな
衣装、軽快なパ
リージョ(カス
タネット)によ
るセビリヤナス
で、皆さんも自
然と笑顔が溢
れました。



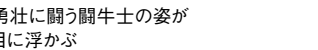
フラメンコに 魅了される

曲に合わせて衣装を着替え、扇子(アバニコ)や大きなショール(マントン)、帽子(コルドベスハット)を使うなど、パリージョだけでははじめて触れるフラメンコの世界にすっかり魅了されていました。



観客を魅了する先生と
男性舞踊家によるバイレ

アード(足踏み)に、皆さん目を見張っていました。



勇壮に闘う闘牛士の姿が
目に浮かぶ



大きなショール(マントン)が印象的な踊り



「私の帽子に聞いてごらん」と明るく楽しく踊る

でも楽しかった「本当に素晴らしかった」「元気をもらった」など多くの声をいただき、「心踊る」講演会になりました。



全員でバルマ(手拍子)を叩き
大盛り上がりのフィナーレ



小松原先生による
バルマ(手拍子)のご指導

用語解説

カンテ：歌(深く響く声の特徴)
- カンタオール(男性の歌い手)
- カンタオーラ(女性の歌い手)

バイレ：舞踊
(床を踏み鳴らし踊る。手の動きに特徴がある。)
- バイラオール(男性の踊り手)
- バイラオーラ(女性の踊り手)

バルマ：手拍子
(高い音と低い音を叩き方によって使い分ける)

サバテアード：足踏み(靴底の音でリズムを響かせる)

小松原先生と男性舞踊家によるレクチャーでは、リズムを刻む先生の素晴らしいパリージョの音と舞踊家の軽快なサバテ

響き渡る パリージョと サバテアード

コロナ禍のおり、舞台上での体験は叶いませんでしたが、席に座ったまま小松原先生の指導のもと、演奏に合わせて全員でバルマを叩き、フィナーレはステージと客席がひとつの大きなタブラオになり、大変盛り上がりしました。皆さんからは「と